

Episode
5

アベリスツイスでの学びと成長

村上 生樹（むらかみ いぶき／宮津天橋高等学校宮津学舎1年）

上／ファミリーのみんなとホストファミリー宅にて
下／ウィル（右）とパーティー会場前にて

最初この事業に対して興味はありましたが、それ以上に不安が大きかったので、正直、参加することに消極的でした。不安の理由は「コミュニケーション」でした。僕はコミュニケーションがあまり得意でなくて、その上、違う言語を扱う人とコミュニケーションを取るのでもとても不安でしたし、緊張していました。ですが、実際にアベリスツイスに着いてみると、現地の方たちはとてもフレンドリーに接してくださり、自分からも話しかけることができるようになりました。

最初は不安と緊張しかなかったのに、帰るころには楽しくて帰りたくないという気持ちでいっぱいでした。僕はこの事業でコミュニケーションを取る力を成長させることと、挑戦することの大事さに気づくことができました。この2つをこれからの高校生活、そしてその先でも生かしていきたいと思います。そして、最後にこの事業を最後まで熱心に勧めてくれた両親には本当に感謝しています。

Episode
6

文化の違いが教えてくれた大切なこと

矢野 香理菜（やの かりな／宮津天橋高等学校加悦谷学舎1年）

今回の研修を通して、日本ではなかなか経験できない貴重な体験をすることができました。

特に印象に残っているのは、食文化の違いです。食事の量や味付けが日本と大きく違い、最初は戸惑うこともありましたが、現地の方に理由を聞くことで、その国の文化や考え方を知ることができました。また、言葉が思うように出てこなくても、ジェスチャーや表情を使うことでコミュニケーションが取れることを学びました。実際に現地で生活をしてみて、自分から話しかける勇氣や積極性の大切さを強く感じました。

今回の研修で身に付けたコミュニケーション能力や異文化を理解する姿勢を、これからの学校生活や将来に生かしていきたいです。

上／レオノラ（左）とレセプション会場にて
下／シアン（左）とレオノラ（左から2番目）との別れの日Episode
3

次世代につなげていく

谷原 莉愛（たにはら りあ／宮津天橋高等学校宮津学舎1年）

アベリスツイス高校生派遣事業に参加できると決まった後、初めての海外渡航に楽しみだけでなく、不安もありました。しかし、いざ行ってみると、ホストファミリーが温かく迎えてくれたため、英語とジェスチャーでコミュニケーションを取ることができ、持参した折り紙やけん玉でとても盛り上がりました。文化の違いで分からないこともありましたが、積極的に質問をすることで、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

ペンウェディング校でホストファミリーの
メガン（左）と

今回の事業を通して、フランク・エバンスさんや多くの方々の平和への思いで友好交流が紡がれてきたことを改めて学ぶとともに、他の学びも得られました。戦争や平和への思い、相手を大切にする感謝の心、言語、文化を越えた交流。すべてが新鮮な学びでした。これも多くの方々のご支援があったからだと思います。与謝野町には、アベリスツイスとの相互派遣交流事業を知らない人も多いと思いますが、今後、さらにこの事業が広まり、両町の架け橋となる交流が続くことを願います。ありがとうございました。

遊園地でホストファミリーの
メガン（左）とEpisode
4

ホストファミリーとの出会い

西原 桜花（にしはら はるか／福知山成美高等学校1年）

高校生の間に異なる文化や価値観に触れることで、視野を広げ多様な考え方をもちたいと考え、今回の事業に参加しました。

初めての海外、言語の違い、緊張と不安がありましたが、ホストファミリーは温かく迎えてくれました。レセプションで、ホストチューデントとウェールズの伝統ダンスを踊り関係が縮まり、ホストファミリーと過ごすことが幸せな時間となりました。作ってくれたご飯はどれもおいしく、食事をするときに「いただきます」と日本語で言ってくれるなど、日本にも興味をもってくれました。ホストファミリーと絆を深められたのは、ミスを恐れず英語を話すことに挑戦しただけでなく、ホストファミリーが私を尊重しつつ受け入れてくれたからだと思います。

エバンスさんが与謝野町とつくられたつながりから、私の人生の宝物になる経験ができました。このつながりを大切にしていきたいです。

上・下／ホストファミリーのシアンと一緒に
過ごした思い出

>>>> 交流のあゆみ

アベリスツイスとの交流は、第二次世界大戦中に日本軍の捕虜となり、大江山ニッケル鉱山で強制労働を強いられた故フランク・エバンス氏が昭和59年に旧加悦町を訪問し、大江山運動公園に抑留中に亡くなった僚友をしのぶために、旧加悦町、日本冶金工業株式会社とともに慰霊碑を建立したことをきっかけに始まりました。昭和62年には、加悦町から贈られた桜の木が平和のシンボルとしてアベリスツイスに植樹されました（右の写真）。平成4年からは友好の架け橋として、未来ある高校生の相互派遣交流を進め受け入れと派遣を交互に行っています。これまでに与謝野町から89人の高校生を派遣し、アベリスツイスから72人の高校生を受け入れています。令和5年には友好関係のさらなる発展をめざし、友好協定を締結しました。

